

の援助政策に影響を与えつつある。これらコンディショナリティーの設定を行政、プロジェクト、政策、政治等の各レベルに分類し、援助レジーム変容の背景を国際関係の視点から分析した。ディスカッサントの高橋康昌会員（群馬大学）は、設定された援助条件の正当性について、援助国と被援助国双方の見解一致をみることの難しさを太平洋島嶼国を事例に説明し、コンディショナリティー強化の方向は、援助がより政治化する危険性をはらんでいる点を指摘した。続いて、フロアーから活発な意見が出され、報告者との熱心な討論が展開された。

（司会・小林 泉）

## 6. 安全 保障

91年度春季研究大会では、まず村田晃嗣会員（神戸大学大学院）が、「ガイドライン以降の日米防衛協力」と題する報告を行なった。「防衛計画の大綱」（1976年）設定以降の日米防衛協力を、「新冷戦状況のなかで日本の防衛政策が『防衛計画の大綱』から離脱してゆき、その結果、日本の分担枠が拡大してゆく過程」として捉えた村田報告にたいして、フロアーから多くのコメントが寄せられ、活発な議論が展開された。

次いで、森山昌俊会員（早稲田大学大学院）が「ソ連の安全保障政策とドイツ統一」と題する報告を行なった。ドイツ統一問題に対するゴルバチョフ政権の対応を詳細に跡付け、当初ソ連が描いていた欧州における安全保障構想が修正を余儀なくされてゆく過程を明らかにした森山報告に対しても、様々な質問が寄せられ充実した討論が進められた。

（司会・伊豆見 元）

## 7. 平 和 研 究

大島英樹会員の報告「湾岸戦争後の国際政治—第32回ISA総会に出席して」と三輪公忠会員の討論を中心に論議された平和研究分科会では、湾岸戦争に対する日米の知覚の相違が浮き彫りにされた。米国では「よい戦争」「悪い戦争」という区別が強烈という報告に対して「米国民は戦争が好きなのは」という川田侃会員の激しい問いかけがあった。自衛隊派遣を期待した国や論者は「戦死を名誉と心得る天皇の軍隊」の再建を望んでいるのだろうかという三輪会員の設問は、「もう一度強いドイツ軍をお望みか」というEC内部での議論と重なり合う。日本の非戦主義を「一国平和主義だ!」と非難するのは憲法前文に対する無知の露呈であり、自衛隊派遣に関しては「絶対にやめて欲しい。憲法9条は世界の希望」という留学生の声があったことが紹介され、平和研究分科会に相応しい議論は規定の時間を越えて続けられた。

（司会・岡本 三夫）

## 8. 東 ア ジ ア

今回は大会第2日午前が分科会大会に当てられたので、

約30名の参加者、2人の報告者を得て活発な討論を行うことができた。第1報告は、林亮会員（創価大学）による「軍改革による人民解放軍の社会的役割の変化」と題するものであり、中国の改革・開放に伴う国防の現代化によって、人民解放軍の脱国防軍化、利益集団化が進行しつつあるとの注目すべき見解が提起された充実した報告であった。第2報告は、国分良成会員（慶応大学）の「中国における政治学的发展と課題」と題する興味ある内容のものであった。中国における政治学の急速な発達過程とその問題点が政治体制改革との関連で提示された。

ところで、当東アジア分科会は、1977年の当学会改編によって発足して以来、私が責任者をつとめさせていただいてきたが、今大会を期して、小島朋之会員（慶応大学）にその任を交代していただくこととし、当日参加者の御諒承を得た。永いあいだの皆様方の御協力に感謝したい。この間、定例研究会は27回開催され、当分科会の共同研究の成果の一端が学会機関誌第78号（1984年10月）に「東アジアの新しい国際環境」として刊行されたほか、一昨年12月と昨年5月の2次にわたって朝鮮民主主義人民共和国へ当分科会の学術訪問団を派遣することができた。今後も、当分科会への変らぬ御支援をお願いしたい。

（司会・中嶋 嶺雄）

## 9. 国 際 交 流

国際交流分科会の創立者、故杉山恭教授が急逝されたのは一年前の国際政治学会の日、本分科会の会場に向かわれる朝であった。一年前のその日突然中断された本分科会が、今回の分科会大会における分科会を機に再開されることになった。昨年末には松村正義会員が杉山教授の後を継ぐことを承諾されていたが、杉山教授の役割が絶大であっただけに、直ちに活動再開とはいかなかったのである。

5月26日午前の分科会には約15名の会員が集まり、まず杉山教授を追悼したのち、松村会員ご自身の報告を中心に討論を行った。報告は「文化外交・民間外交と国際交流・民間交流」と題され、国際交流の概念整理の試みであったが、杉山教授が生前に『国際教育辞典』に執筆された項目「国際交流」に絶えず言及しながら、「交流」を「外交」に対置し、「国際」を「公際」と「民際」に区分するという松村会員のアイデアは、国際交流研究の境界を明確に設定して、本分科会の責任者のバトンタッチと再スタートに相応しいものであった。

なお、この日の会場で分科会のメイリング・リストの作り直しを始めた。例会通知をご希望の会員は、松村会員までお申し出頂きたい。

（司会・平野 健一郎）